

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設2年目に職員と話し合い、「自分らしさを大切にし、生きがいのもてる暮らしを共に作りましょう」の理念を時間をかけた論議の中で作った	○ 地域密着型サービスとしての役割を目指した内容が含まれたものになるよう（地域との関係性にも視点を置いた理念）秋までに、理念の再構築をしてきたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関から入った正面の壁に理念を書いた色紙を掲げている。日常的に目に触れる場所にあることにより、入居者、家族、見学者、職員に浸透してきている	○ 職員会議などで地域密着型サービスの意味を知らせてきている。更に現在の理念を一步すすめ、ふくらませた内容を盛り込むよう考えている
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念の具体化した内容は、運営委員会会議の中で、文書（事業計画書・事業報告書）や口頭で説明をして知らせている。家族にはお便りなどで様子を知らせている	○ 自治会の回覧板を活用したホームの理念や内容のお知らせを具体的にすすめてきている。（秋頃には実現できるよう準備中）
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	公園への散歩や農道散歩がほぼ毎日の日課になっているため、地域の方々と入居者との会話は自然な形でできている。また、商店や理美容室なども顔見知りで利用している。隣接の保育園の子供たちや保護者に声かけあったりして会話を楽しんでいる	○ 管理者は長年（22年）隣接している同法人の保育園の職員であり、地域担当者歴も長かったため、地域の方々との面識も多い。気軽に立ち寄ってもらえる工夫は今後必要であると考えている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	公園清掃の取り組みなど、地域と一体化となって取組めることを今後検討していく
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	認知症を広く知らせるミニ講座の開催や、相談窓口になっていくこと。(副施設長はキャラバンメイトの講師資格あり)。職員の特技を生かした老人会サロンへの積極的な参加
3. 理念を实践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	全職員で評価の取り組みを行っているが、外部評価の結果も全員の必読文書として徹底を図るようにしている
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	運営推進会議の構成員を増員(現在7名)し、より広く意見が収集でき、ホームに活かせる様にしていきたい。(次回の会議で提案予定)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症キャラバンメイトの講師として、派遣 ・事業所間の交流、向上を図る研修会等を具体化する「枚方市グループホーム連絡協議会」の再開に向けての働きかけ
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	職員にも制度の意味あいや内容について知らせる努力をしていく予定
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	地域の中に埋もれている虐待の実態がないか等民生委員と共に今後ホームの役割として果たしていけることを検討していきたい（ディサービスなどの多機能型も視野に入れる）

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでも十分な説明を行っているが、契約時にも最低1～2時間の説明を行い、理解と納得につなげている。特に不安や疑問点については具体的なケアの例などを示しながら方向性を確認できるような話し方に努めている	○	1ヶ月間を「仮入居期間」とし、双方が十分な理解と納得を得られるよう取組んでいる。1ヶ月目に再度意思の確認とケアの方向性の話し合いを持っている（現在まで入居中止の例なし）
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロア窓口には、意見箱を設置し苦情や不満が出しやすいように配慮している。日々の生活上の苦情や意見は記録に残し、対応スタッフが確認できるように、申し送りの中にて伝える方法をとっている。尚、内容によっては会議の中で議論し対応方法を検討する	○	大切な内容で、意見や不満につながると予測される内容については、利用者全体の集まりを持ち、管理者が説明する場を設けている（入浴時間の変更など）
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家人来所時各フロアの職員が入居されている方の日々の様子を伝え、又健康状態については、異常時を含め特変事は積極的に連絡を取り伝えている。職員の異動に関しては馴染みの関係性という点を考慮し、介護リーダーより家族への説明、又は樹の実便りにて報告するなど徹底を図っている	○	「樹の実だより」にて日常の様子や取り組みの予定などを知らせている。金銭管理は、各自個別の出納ノートへ記入している
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームへの来所時、入居者の方の状況をお伝えすると同時に、ケアへの希望や要望は無いかどうかを必ず聞くように努めている。又、苦情発生時はその内容確認のもと処理方法を検討し、質の向上を目指す取り組みを行っている	○	家族からの意見、不満、苦情については、すぐに対応し改善に向けて取り組み、必要な内容は全体にも知らせる
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度ごとに「事業計画書」「事業報告書」を作成し、職員にも提示し会議などで意見を求める機会を設けている。内容については、各種会議で具体化を図るよう努めている	○	各職員が自分の役割を持ち、分担と協働を自覚して、直接のケア業務以外にも、日常業務がスムーズに主体的に取組んでいけるような形態をすすめている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	<p>夜間（深夜含む）の緊急対応の臨時出勤についても、職員と管理者で話し合い「夜間緊急対応予定者」として勤務表に組み入れた体制を確保している</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい職員への研修・教育の徹底 ・働きやすい職場環境・労働条件の整備を更に検討し努力を続ける
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府社会福祉協議会や研修センターで開催される研修には可能な限り経験や立場に見合った研修を受講できるよう配慮している ・パート職員の研修の機会を増やしていきたい
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	<p><現在、加入している同業者団体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国認知症高齢者グループホーム協会 ・大阪認知症高齢者グループホーム連絡協議会 ・枚方市グループホーム連絡会 ・枚方市介護支援専門員連絡協議会

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理的職員は常に職員のストレスを察知するよう心がけ、話し合いを持っている。又、管理者（施設長が兼任）は、重要事項の相談、報告を日常的に理事長代行に行い協議の上決定したり、問題解決のアドバイスを受ける中で方針の整理を図っている。法人として施設長会議の定期化も具体化されてきている	○	職員がストレスをためこまないような職員の環境作りや、管理的職員が心身共に体調をこわさないような法人としてのシステム作りが課題である
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設長は、職員が業務にあたっているすぐ側におり、必要時には介護現場にも入っている。そのため、日常的に業務内容、勤務状況を含め、各自の努力や苦勞に接することが多く、個別の声かけにつなげている	○	各自が向上心を持ち介護の現場でやりがいを持てると言うのは、現状としてなかなか厳しい状況である。各施設のかかわりと言うよりも、介護保険制度の仕組みの見直しが必要であるように思われる

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	「どのようにしたい」とご本人が考えておられるのかを出来るだけ聞ける 雰囲気作りに努めている。相談に来られる方の大半が認知症状をお持ちのため、自分の考えを相手に伝えることが困難と思われる現状がある。しかし面接時は必ずご本人と話せる場面を作りコミュニケーションを図っている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の悩みや思いは深く、見学时や面接時に家族の方と話せる時間を必ずとるように努力をし、時間内にて傾聴できていない部分は後日お電話や訪問等にて対応している	○ 見学は、利用者と家族が納得するまで何度でも可能として、受入れや説明を行っている
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談時内容の確認のもと、今何がこの家族に必要なのかを見極め、GHの入居だけに限らず、多方面のサービス利用を含め提案と助言を行っている	○ 他のサービスも含め、できる限りの情報は伝え、相談にのれるよう努めている
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	GH樹の実では仮入居という対応の実施を行っている。ホームの雰囲気にご本人が馴染めるか、他入居者との関係性が作っていきけるのか等を、1ヶ月間の期間を設け、家族の意向もふまえ確認する時間とさせていただいている	○ ・今後、通所介護や短期利用共同生活介護の制度を新しく導入することを検討中である ・家族との話し合いを十分行い、利用者の状況に見合った家族からの支援を相談してすすめている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援される側、支援する側という意識ではなく、お互い協働しながら暮らしを作っていく仲間として、「共に支えあい」暮らしています。人生の先輩として学ぶ事も教わる事も多くあり、尊敬を忘れない関係性を築いている	○	入居者をより深く知っていくために、家族の協力も得ながら、アセスメントシートを活用して、生活歴や得意とされていたことなどの情報収集に努めていく
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	共に暮らしていますから、そこに発生する事件はみんな参加です。時には大声も出たり、泣き出したり、一緒にいることで分かち合えることもたくさんあります。寂しさも悲しさも共有です。だからこそ、ここには「本気の笑顔」があるとおもっています		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員はご本人の家族への思い、感謝の気持ちを積極的に家族の来所時、又電話でのお話中に伝えるように心がけ、ご本人にも家族からのいたわりの言葉等を伝え関係性の構築に努めている	○	入居者が特に気にされる、お正月・お盆などの過ごし方については、お便りで提案したり、個別に相談をしながらとりくんでいる
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者の制限・時間の制限について、出来る限り可能とし、以前交流のあった方々との関係性の維持に努めている。ただしどのような方が訪問されたかの報告は家族に伝え、トラブル防止対応としている	○	行きたい、会いたいとの意向に出来るだけ対応したいという思いは有るが、思いの場が過去の場所や場面であることも多く、なじみであった方の顔も記憶の中に残っていないこともある。今後も支援は続けるが、症状により新たな課題点となる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活における相性という面もあり、他者との関わりを強要せず、自然の取り組みの中に関わられる面、そうでない面を認めていくように配慮している。職員も共同生活の一員であると考えており、職員をふくめた生活空間にて、自然な形で支えあえるように努めている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	何らかの状況により契約終了となった場合も家族、又ご本人が希望されれば生活へのご助言、悩みへの傾聴等させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中でその方がどのように自分の将来や今後をお考えなのかを汲み取れるよう働きかけしている。又意思疎通の困難な方の場合、今をどのように感じておられるのかをその方なりの表現・行動から推察し、その方の「今」を安定させることに力を注いでいる		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の初回面接において生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境等は確認させていただくようにしている。又利用されていたサービスの内容やその場での様子についても情報収集させて頂き、今後の暮らし方に生かせるよう努めている		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	自宅での暮らし方や、心身の状態について、より具体的な内容を把握していくために、家族の方、担当ケアマネ、利用していた在宅サービスの事業所等より情報を収集している。入居申し込みと同時に、医療機関からの情報提供書も受け取り、身体状況の把握に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	意思疎通の図れる方はもちろん、困難を伴う方も含め、どのように自分はあるのか、どうしたいのか等を口頭または、様子にて確認させていただきその思いを主としプランに反映させている。そのほか、家族の意向、ケア現場の気付きも同時に加え作成につなげている	○	家族や職員の意見を反映した介護計画の作成に努めているが、かなりの時間が必要である。今後は、より適時に組み立てていけるよう、業務的な見直しをすすめていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画はあくまで6ヶ月を目標として作成しているが、身体状態・精神状態・又認知状態の変化や進行に伴い、家族の方にはその都度お話しはさせて頂き、意向の確認をしている。その上プランの変更も同時に行っている。尚計画書の提示が遅れる場合には、ケア指示書を現場には早急に出すようにしている	○	同上
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入の重要性を周知し、ケアスタッフに記載の積極化を徹底している。又「何について書いたら良いのか」「入居者の方々の何処に視点を置いたら良いのか」のスタッフからの質問には、記載する内容を提示し、又記入事項の前にキーワードを設け、何について書いているのがひと目でわかり、見直し作業が簡素化できるよう工夫をしている	○	どの職員が見てもわかりやすく、把握しやすい個別記録にするための改善を行った。また実践に生かしていける工夫も重ねてきている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームは隣接する保育所と同法人であります。保育所との関係性で広がりつつある関わりが、保育所のバザーへの参加、地域のお祭りへの参加、又老人会のサロンへの参加等など「少しでも外部との関係を作れたら良いのに」の家族の希望でもあり今後も拡大していきたいと考えています	○	今秋を目途に、認知症対応型通所介護及び短期利用型共同生活介護について情報収集し、地域の方や利用希望者への多様な支援を前向きに検討している

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今現在も地域のボランティアとの関わりなどあるが、具体的にどのような支援が必要なのかを伝えて行く機会と場所が必要と考えている。	○	認知症キャラバンの展開もふくめ認知症の話をさせていただける場をホーム独自で無くキャラバンメイトを活用しながら現実化させたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同ホームの質の向上を目指し、他施設のケアマネジャーや管理者の方たちと2ヶ月に1回の情報交換会を実施している。その会で収集した内容は活用の有無を検討しホーム独自の工夫を加えながら実施につなげている。又ホーム内での問題点・困難事例についても積極的に提起し意見交換している	○	社会性の維持・向上を目的とし、必要に応じてデイケア（認知症対応）への参加を、家族と相談しながらすすめている。デイケアの担当看護師との情報交換にも努めている
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での情報提供で、地域の状況や制度面での知識を深め、今後はマネジメントについての相談 助言をふくめ 協議できるように関わりを広げて行きたい。包括支援センターの実践内容に認知症キャラバンの実施があげられており同校区として参加し関係を深めたいと考えている	○	権利擁護についての学習をすすめ、地域包括センターとグループホームが協働して、今後どのようなことを展開していけるのかの話し合いを持ちたいと考えている
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回の往診・定期的な検査を実施している。かかりつけ医とホームの関係を構築するための話し合いの場を繰り返し設定し、入居者、家族の意向への対応 ホームへの情報提供の方法等の具体化をはかった。現在は入居日より医療機関との連携への取り組みが定着化しつつある		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	医療制度の学習を深める。介護と医療を繋ぐネットワークづくりに参加して行きたい
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	今後は利用者に関わる現場職員（ケアマネ・看護師 ケアワーカー）等の話し合いの場や家族を含めた医療機関との担当者会議の積極化を目指している

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>死という現実に向かってご本人がどうありたいのかを一番に、家族様の思いを受け止め、現場の職員との終末期への取り組みの話し合い・医療機関との対応への打ち合わせ等を繰り返し実施する。又、終末期の職員体制の確保、家族と一体化での支援 このことが利用者の終末期へ結びついてゆけばと考えている</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>利用者への対応についてのホームの取り組みとして、声掛けや接し方、暮らしを作る環境因子として作り出す音や臭い、光、冷気暖気など様々なことについても今後、カンファレンス等にて“どうい影響が発生するのか”の理解に向けた取り組みをより一層、積極化する必要がある</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	職員の生活スタイル、感覚の違いなども有り、支援として十分とはいえないため、今後は入居者の方の様子を見ながら 積極的な取り組みとして加えていきたい
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<p>昼食後の時間は、午前中の生活リハビリや散歩などの疲れを取り除き、夕方時間帯の活力を生み出す為に(昼寝などで)身体を休めましょうという働きかけをしている</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	樹の実ではケアへの取り組みの一つに「居るがい作り」をあげている。ここにお住まいになる入居者が「ここで暮らしてよかった。ここで役に立て良かった」と思えるように「得意なこと、したいこと 以前頑張っていたこと」等、ケアの中に組み込み取り組んでいる	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者ひとり一人の力にあわせ、お金の所持についても対応している。尚、各居室内への現金の持込に関しては、説明の上、ご理解いただき、ホーム設置の鍵つきの個人ボックスにて保管している	○ レシートの保管、お小遣い帳への記入などの支援をしている
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限りご本人の外出への希望をかなえていくのが基本であると考えているが、認知力の低下により短期記憶症状が著明である方を含めての共同生活の場であるため、第一に身体に危険を及ぼすことのないように配慮している。一日一回の散歩の提供、健康面に配慮しての対応に努めている	○ 繰り返しの散歩・外出を希望される方については、天候や健康面での配慮をしながら受け止めていただける対応を工夫している
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段いけない所への外出支援についても危険のないように又、身体状態の変化の対応が出来るように、ホーム看護師を必ず同行させ、職員も増員にて対応している。又ご家族とのお出かけに関しても、ご本人との関わりを深めていただけるように支援している	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く機会 手紙を書く方法を提供し、手紙を出す相手の話を加えながら、書く楽しみ・書いたものを出すまでの取り組み、出した後の相手の方からのお返事など含め、入居者の生活支援として取り組んでいる。電話に関しても同様の取り組みをしている	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問に関しては制限の規制はなく、気軽に寄って頂けるようにという思いにて対応している。来所時に気分良く過ごして頂ける様に、職員が必ず出迎えさせていただき、飲茶等の対応も徹底している。本人との時間もゆっくりと過ごして頂けるように場所の設定にも配慮している		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはマニュアルもつくり、会議の中でも一部研修時間を設け、どういうことが拘束になるのかを学習している。尚、やむおえず身体拘束が必要な方に関しては身体拘束についての説明をし、同意書を頂き家族と本人の承諾の上期間を決めての対応としている		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	今現在2階フロアは、常に外出しようとする入居者がおられ安全確保の為、玄関に鍵対応とし、必要に応じて鍵を開けるという状況となっている。入居者の依頼により散歩対応の実施には勤めているが、体状態の変化等により外出することが危険であると思われる場合は、ご希望に添えないこともある	○	今現在、各フロアの玄関の鍵ではなく、一階玄関先の門扉の鍵使用にて 2階玄関の鍵を開けようという提案をあげている。徘徊者を閉じ込めない、しかし危機管理を徹底していくという点にて、検討中となっている
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	下肢筋力の低下者、認知力の低下傾向にある方を含むフロアのため昼間は、さりげない居室の確認、本人への話しかけ等により安否確認を実施。夜間は頻回にナースコールがなる事への他の入居者への配慮も加え、夜間3回の巡回以外にも訪室の上、様子を把握している		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知力の低下により危険となる対象物は増えてくる。そのためホームでは刃物、薬剤の保管には鍵の付いている棚を使用し、異食につながるものは片づけを徹底し、取り上げるのではなく見守り強化にて危険であるかどうかを日々のケアにて見極めていく取り組みをしている		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故予測については気づきノートを書き、事故発生時には他機関への依頼が必要になる内容に関しては事故報告書、それ以外をヒアリハット報告書にて提出。事故の起きた原因、背景、事故への対応 対処をホーム全体にて確認し、会議でのグループ討議又は経過報告にて事故防止への取り組みを行っている	○	危機管理面では管理者が研修会にて学んできたことを 現場に伝えている。又、4月より「危機意識向上委員会」を立ち上げ、危機意識強化の取り組みを目指している
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	身体機能低下の者しい方を言めたフロアであることにて、又夜勤者が各フロア1名にて対応することも有り、積極的に緊急時の取り組みをシュミレーションしている。急変者が発生した時のマニュアルの作成と、夜勤者への確認の徹底、ホームナースからの緊急事態への指導、緊急時夜間補助要員派遣の体制も職員の同意の中で設定している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は定期的には実施する努力はしているが、地域の方に協力要請するには至っていない	○	ご入居者の中には以前、避難訓練実施の際、避難訓練の受け止めが出来ず居室内に閉じこもられたことがあった。地域の協力を得る上で、このホームにはどのような方が住んでいるのか、認知症キャラバンの講演などにて、認知症の勉強会を地域でさせていただきたいと考えている
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクに関しての話は積極的に行っている。 (今、入居者がどのような様子なのか、そのことでどのような事が予測されるのか等) 生活の支援の場であるホームの生活がその方主体でありそのために事故へのリスクと隣あわせである事を伝え、時にはご家族同席にて話し合いもしている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化のある方への支援については、変化状況の確認(顔色 発語 動き方 血圧 脈 体温等など)の上、悪化状態が見られる場合にはかかりつけ医、または担当看護師への報告を徹底している。報告後の指示は申し送りにて必ずつなぎ対応の周知を図っている	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬について ①正しく服薬を提供する ②服用の漏れは無いかどうか確認する ③変更への対応と確認作業の徹底等、ホーム独自の工夫にて服薬への支援を実施している。服薬の副作用・飲み合わせへの注意等ホーム看護師より資料提示を行っている	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の工夫と働きかけとして、食事面では朝食に乳製品(ヨーグルトの摂取)を加えたり、野菜スープを付けるなど工夫をしており、運動面では下肢筋力低下者が多い状態の中、風船バレー、ボーリング、椅子でのサッカーなど出来るだけ加えていくようにしている	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立されている方で口腔ケアの受けてとめが困難な方を含め毎食後、口腔ケアへの声掛けと介助を実施中。又、月一回の歯科医の往診、2週間に一回の歯科衛生士の訪問により口腔の清潔又嚥下力低下への対応についての指導・助言をいただいている	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分補給量については身体チェックシートを使用し、一人ひとりの状況を把握している。具体的な内容は記事に記載し身体変化への気づきを徹底するよう日々努力している	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症については、予防や対応のマニュアルを作成し、又実際経験を積むことより、現状に即した取り組みへと改善し、保健所との連携も加え実行につなげている		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒対策として、日々の調理用具の消毒（ふきん まな板 台拭き等）を実施している。又フェックシートにて調理場の清掃を確認し保清の徹底に取り組んでいる。食材管理は担当者を置き、定期的にチェックし安全管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家庭的な玄関扉、観葉植物や鉢植えの花、フロアへの扉も木製にて温かみのある雰囲気となっている。玄関にベンチを置き、気軽に立ち寄ってもらえる場所へと工夫を目指している		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室、外向きの窓より光が入り明るく、又居室から眺める景色が良く（山並み、田園風景、民家などが見える）入居されている方が、外を眺めて「いいな～」と声を上げてくださる事がある。そのほか日常フロアでの選曲をオルゴールの曲にするなど、穏やかに過ごせる雰囲気作りを目指している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳や障子のある和室、窓辺の椅子、サンルームなどさり気なく、人の気配を気にせず過せる場所の提供は出来ている。思い思いに自分の安心できる場所を探していただき、その場所にて過ごされる様子が見受けらる	○	
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はご本人らしさを出せるように、又居心地のいい馴染みのあるものをまわりに置くなどの工夫を各自でされて、職員はその支援をしている	○	認知症の進行と共に物の認識が困難になり、なじみのものも混乱の要因となり、居室内に必要最小限のものしか置けない状態となった方もおられる。一律の考え方でなく、全てにおいてその方の症状による設定が必要であると再認識している
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気・空調への配慮は機械での温度管理だけでなく、必ず職員が自ら温度を体感し、居室のエアコンの羽根の調整、居室の温度計での室温と湿度の確認など特に体調面での不良の方や体温調整の出来にくい方などこまめに確認をしている	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内、通路、トイレ、風呂などの手すり設置や歩行の不安定さが見られる方への歩行器、トイレは自分でしたいが移動が厳しい方へのポータブルトイレの導入など、その方の状態や状況により「自分でやりたい」の思いに添える支援を行っている	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症の進行と共に物事の組み立てが難しくなる状況でも、ホームで繰り返し生活の動作を共にすることで、今まで出来ていなかった事が出来るようになったり、職員も驚くほど「その方の力」を発見することがある	○	認知症の軽い方と重い方の症状の差が共同生活の中で、双方の能力向上への抑制になることもあるように思われる。共同生活の中身をどのように整え、生活の主体を何処に持ってくるのが、今後の新たな課題ではないかと思っている
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	2階フロアは各室ベランダを外回りとして、そのほか玄関付近、サンルームの空間がある。自立歩行が難しい方を除きほとんどの方が自室のベランダを利用されている。洗濯を干す、外を眺める、気のあった方とおしゃべりする等さまざまな行動に活用されている。	○	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の方をお預かりするホームとして、その方らしさを尊重し共に暮らしていく上で、樹の実では“一日の流れ”を作り生活の中での動き 考え 思い等をリハビリとして積極的に取り入れています。そのことは認知症状の進行を防いでいけると考えています。職員は過剰に関わらず、“自主性の尊重 いるがい作り”をケアのポイントに置き、さりげなく寄り添う、入居者の方々の気持ちを閉じ込めない支援を日ごろより職員に伝え、共に暮らしてく仲間として関わっていく大切さを持ち続けたいと考えています。